

鳥取県内 260 校に交通安全旗を送りました。（幼稚園・小学校・中学校）
“交通遺児・福祉カンパ活動の一環”

6,000本

贈呈



鳥取市岩倉小学校にて 高田校長 安田理事長

不幸にして交通事故により親を亡くした子供の支援の為、1979年（昭和54年）に始まった交通遺児支援カンパ活動が今年で30年を迎えることとなりました。

この間、延982人の生徒に激励の意味を込めて支援金を送りました。

募金活動は、毎年12月に街頭カンパ活動を東部支部・中部支部・西部支部で行っています。又、職場では職域カンパ、そして組合イベント等での募金活動などで行われています。

今年度は新たなどりくみとして、今まで積み立てた資金を活用し児童・生徒の交通事故防止の啓発活動の一助として、県内小・中学校・特別支援学校・幼稚園へ横断旗（黄旗）を260校に贈呈しました。

贈呈式は県内3小学校で実施しました。（4月14日 月曜日）

東部地区 鳥取市 岩倉小学校 安田理事長 小泉専務 小高常務

中部地区 湯梨浜町 羽合小学校 中林中部支部支部長 川上事務局長

西部支部 日吉津村 日吉津小学校 角西部支部支部長 赤井事務局長



湯梨浜町羽合小学校 中林支部長



日吉津村日吉津小学校 角支部長

個人情報保護法の壁



高田校長（左）や児童の登下校を見守る人たちに横断旗を届けた安田理事長（右、鳥取市立岩倉小）

した子どもたちを支援する活動が、個人情報保護の壁に阻まれている。遺児の情報の提供を受けるのが難しくなり、対象者が一けたにとどまる年も。街頭募金やカンパ金を元に、これまで学用品や支援金を延べ約1000人の遺児に贈ってきたが、30年目を迎えて継続するかどうかに頭を悩ませている。

協議会は、労働者福祉の推進を目的に、1971年3月に発足。同年の労働組合などは財団法人として、遺児への援助が財団法人へと進んだ。1979年度から始めた「安田邦夫理事長は『当時は交通事故の補償が十分でなく、遺された子どもたちの学習を助けていい愈やつた』」と、当初は、毎年末の街頭募金や職域カンパで学用品を用意し、把握した遺児全員に贈り、贈り金の同意を得たうえで提供して

（佐藤幸）

贈り牛

贈り先把握への協力減る

県労働者福祉協、新たな形模索

7校・園に横断用の旗を20本ずつ贈った。購入費は寄付金と支援実績との差額の積立金で賄つた。

交通遺児支援に危機

した子供たちの教育支援（鳥取市）・カラビ遺産守護団の壁に
阻まれている。遺児の情報掲載を受けるのが難しくな
り、対象者が一けたにとどまる年。街頭募金やカンパニ
を元に、これまで学用品や支援金を延べ約1000人の
遺児に贈ってきたが、30年目を迎えて継続するかどうか
に頭を悩ませている。（田拓幸）

（任
招
幸）

6年度からは、対象学年全
体の約2万5千人分の書類を
家庭に配つてもらい、各
家庭が申し込む方式に変え、
同年度は27人、07年度には18
人に支援金を贈つた。なぜ効
力がかかるさぎる」との声が
出て、今年度はまだ本年度は未だ
県教委は「事業は紹介でき
るが、家族の死という私的な
情報を外部に出すのは難し
い」としている。
「子ども自身を事故から守
るために大切なこと」安田理事長
らは今月、初めて県内の全公
立小中学校や幼稚園など76
校へ横断旗の贈付を20本
ずつ贈つた。購入費は寄付金
と支援実績との差額の積立金
で賄つた。

14日に安田理事長など会員小会の
人情報保護法の全面施行で、
協力を得るのが難しくな
た。

06年度からは、対象学年全
体の約2万5千人分の書類を
家庭に配つてもらい、各
家庭が申し込む方式に変え、
同年度は27人、07年度には18
人に支援金を贈つた。なぜ効
力がかかるさぎる」との声が
出て、今年度はまだ本年度は未だ
県教委は「事業は紹介でき
るが、家族の死という私的な
情報を外部に出すのは難し
い」としている。
「子ども自身を事故から守
るために大切なこと」安田理事長
らは今月、初めて県内の全公
立小中学校や幼稚園など76
校へ横断旗の贈付を20本
ずつ贈つた。購入費は寄付金
をどう生かしていくか、さまざま
な形を検索したい」と話
している。

200

七

九四

2008年(平成20年)4月15日

新編

交通安全に活用して

鳥取

情報はこちら
本社 0857(21)2880
中郎本社 0858(26)8311
東伯支局 0858(53)0671
但馬支社 0796(82)4541
Eメールアドレス
houdou@nnn.co.jp

2008年(平成20年)4月15日 火曜日

福井県立高等学校へ横断旗寄贈

財団法人県立高等学校協会
同協議会は一九七九年までに積立金を用いて子どもたちを守るために、個人情報保護の活動への貢献を感謝して、今回の寄贈が社会貢献に貢献された。

種類など一百六十種類が申請制度になつた。

間に日本全国の横断旗などや、神輿模型の寄贈が図られたことから、

「安全寄贈」を送つて、七九年当時は八十人

の〇〇七年度は十八人となり組み、

大幅に減少したのである。

11. *Leucosia* *leucostoma* (Fabricius) *leucostoma* (Fabricius) *leucostoma* (Fabricius)